

2024年北海道の旅

1日目 7月26日(金) 大洗港からフェリーで

北海道旅行のスタート。今回は、妻と二人旅。車中泊はいやだというので、安いホテルを泊まり歩く予定。

10時に自宅・南大沢を出発。南大沢→あきる野インター→つくばJCT→友部JCT→水戸大洗インターで降りる。169.4キロ。圏央道の混雑もあり予定より1時間オーバーで13時過ぎに大洗に到着。

大洗浜っこ食堂で昼食。海鮮丼など注文。地魚も入っていて旨い。食事終わって外に出ると真夏で外は熱い。

隣のスーパーでフェリーでの夕食、朝食の買い物をする。フェリーには、レストランがあるが、混むし高いので買って持ち込む。

16時30分には、大洗フェリー乗り場に到着。チェックインは窓口で行った。自動チェックイン機もあるが、窓口は空いていた。

ターミナル2階で乗船まで待つ。夏休みとあって混雑している。

18時30分に乗船。運転手は車へ。同乗者は、2階乗船口から乗る。

19時前には、乗船できた。今回は、コンフォートという客室。一つの部屋に30人位、それぞれにカーテンで仕切られたベッドがある。中にはテレビもある。カプセルホテルの個室と似ている。妻は、早かったようで先に来ていた。

フェリーの旅はゆったりと

19時45分 大洗港出発。サンフラワーふらの号。約19時間の旅、苫小牧港をめざす。

運賃は2万2000円(1人)、4万9500円(車+1人)合計7万1500円。6年前にもフェリーを利用したが、約2万円上がっている。この間の物価高を痛感する。

船のラウンジは広い。そこで夕食。隣に座った人たちも同じように、持ち込んだもので食事をしている。

その後、展望浴場に入る。夜なので、外は真っ暗闇。妻はサウナにも入ったようだ。

2日目 27日(土)

まだ船の中。夜明けは早い。6時にはすでに明るくなっているが、外は雨。朝食は抜く。

11時ころに、朝と昼食を兼ねて食事。湯沸し器があるので、持ち込んだカップ麺、パン、サラダなどを食べる。

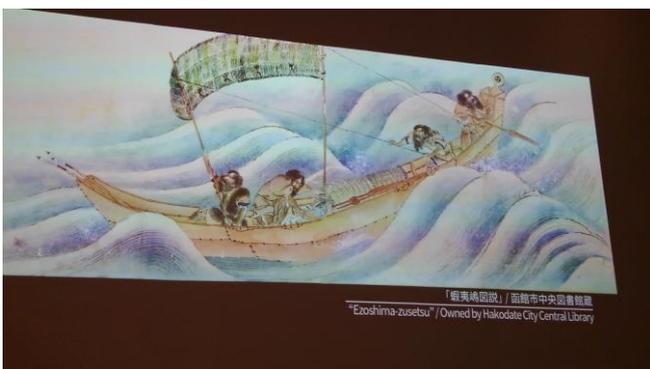
13時30分。苫小牧港に着く。下船は、同乗者も車で一緒に出る。車は、船の一番下に停めてあった。外に出ると一気に明るい雨が雨である。このフェリーには、大型トラックが多数乗っていた。関東から北海道へ物資を運ぶのに、運転手の負担が少なくよいようだ。

下船して、JR線路の反対側にあるイオンモールに行く。そこで、飲み物、氷、夕食と朝食などの買い物をする。できるだけ、外食はしないようにして節約する旅である。

14時30分、苫小牧→白老に向けて走る。道はまっすぐ、海沿いを走る。45分くらいで、ウポポイ民族共生象徴空間(国立アイヌ民族博物館)に着く。駐車場から施設はすぐだ。入館料1200円。アイヌ民族の文化を復興し、発展させるべく創設された施設。アイヌ民



サンフラワーふらの号



国立アイヌ民族博物館のアイヌの生活画

族は、国家の政策によって生活基盤である土地や資源を奪われ、独自の言語を使うことを禁じられ、不当な差別を受けるなど、苦しい時代を経験してきた。そのような逆境にあっても、文化の伝承を地道に続け、自ら博物館をつくり、自らの拠り所となる文化を保存、復興しようとしてきた。白老の地には自らが創立した「アイヌ民族博物館」という博物館が30年以上にわたって運営されてきた。ウポポイ建設に伴って2018年3月にその歴史を閉じた。その精神は、ウポポイとその中核施設である国立アイヌ民族博物館に受け継がれているとのことである。

登別までは、約20キロ。雨なので、登別の地獄谷を翌朝にみることにした。

いい湯だな～登別温泉

17時に登別温泉「夢元さざり湯」に入る。共同浴場で490円と安い。しかし、日本一の温泉らしく、体が温まりとても良い温泉だ。

19時半に登別駅前まで宿泊。「Relax Guest House 登別 Station」という民泊施設だ。完全にフロントはなく、入り口のカギは、デジタルキー。その番号は、オーナーからメールで宿泊日に送られてくる。

駐車場があるとのことだったが、宿泊施設の近くにはない。オーナーに連絡して場所を聞く。廃業したパチンコ屋の駐車場だった。歩いて3分のところ。妻は、駐車場がないので、どうしたらよいか、非常に困ったと思っ

たらしい。部屋は、ファミリールーム5名ということだが、2階の8畳ほど。食事なしで2人で1万800円、駐車場無料。落ち着いたところで、20時に部屋で夕食。隣には、外国人家族が泊まった。下にも単身の外国人がいた。今、日本中、外国人旅行客が多いようだ。

3日目 28日(日)

部屋で7時30分に朝食。外はまだ雨。それでも昨日よりは弱くなったようだ。

9時に宿を出発。車で10分位山の方にある、地獄谷に行く。登別温泉の源泉地。駐車場は500円必要。登別パークサービスセンターから歩く。雨は小降り。

火山の水蒸気噴火がきっかけで生まれた地獄谷。噴火によって作られた火口跡が現在の地獄谷となった。面積はなんと甲子園球場の2.8個分ほどの広さ。地獄谷では、1日1トンもの温泉が湧き出ていて、登別温泉に供給されている。



登別の地獄谷



洞爺湖 後ろが中の島

泡を立てて煮えたぎる風景が「鬼の棲む地獄」の由来となったとのこと。遊歩道は整備されている。雨なので、遊歩道の最奥の鉄泉池(てっせんいけ)(間欠泉)まで行く。周期的に噴水のように地中から熱水が噴出されるところだが、その日の時間帯では見られなかった。雨で煙っていたが、辺りは地熱の噴煙がもくもくと出ていた。妻はこういう景色が好きだという。

ここから、山道を洞爺湖に向かう。

洞爺湖に着く。マルに近い湖だ。真ん中に、中の島というかなり大きな島がある。一人 1600 円、50 分で一周する洞爺湖汽船が出ている。今回は、残念ながら雨なので遊覧船はカットする。

北海道の味覚スープカレー

今、11 時 30 分。少し早めだが、ネットに載っていた Soup Curry mogmog という店に行く。湖畔から坂を上っていく途中にある。そこで昼食。もちろんスープカレーを二人とも注文。チキンカレーと野菜カレー。辛さは選べる。辛さを増すにも値段が上がる。北海道は、スープカレーがおいしいというが、まあ、おいしいかな。

その後、昭和新山と有珠山を見ようとドライブするが、あいにく、ガスっていて、有珠山は見えない。昭和新山は観光地。昭和新山を見るには必然的に駐車場に入らねばならない。駐車料金を支払って、昭和新山を下から見る。少し登っていくが上には行けない。上は、そもそも溶岩が固まっている赤茶けた崖。まだ、ガスも出ている。

昭和新山は、1943(昭和 18)年に始まった有珠山噴火によって誕生。わずか 2 年ほどの噴火活動によってできた溶岩ドームである。

まだ時間があるので、再び洞爺湖温泉へ。湖畔にある年期の入った洞爺観光ホテルの入浴施設に入る。800 円で入浴。羊蹄山と洞爺湖が一望できるとのことだが、雨は上がったがあいにくの曇り。

15 時に洞爺湖温泉を出発。室蘭へ向かう。今日の宿の街だ。約 1 時間位。南下していく。室蘭に近づいた。有名な白鳥大橋が見えてくる。室蘭港を橋で横切って渡るのだ。スケールが大きく展望はすこぶる良い。

南端にある地球岬に着いた。風も、霧もあり寒い。視界が 2 メートル位か。まだ、午後 5 時前なのに、すでに陽が落ちたようになっている。展望台に上るが水平線は全く見えず。

早めに東室蘭にあるアパホテル〈室蘭〉に行く。部屋に着くとやはり、アパホテルは狭い。朝食付二人で 10350 円。

少し休憩を取って、雨が小降りなので、ホテル周辺の店で夕食を取ることにする。調べておいた店・味処いずみは休みだった。仕方なく、ホテルの向かいにある、くら寿司で夕食。安いが握りがいまいちでネタも北海道らしくなかった。

ホテルは、ダブルベットだが、狭かった。

4 日目 29 日 (月)

アパホテルの朝食バイキングはマル

7 時半に朝食。バイキングだった。普通のホテル以上で品数豊富。夜の食事並みだった。妻は、ここぞとばかり

いっぱいお代わりをして食べていた。

外は、雨が続く。今日も雨かと嘆く。

9 時にホテルを出発。今度は北上する。伊達を通り、洞爺湖の脇を抜けて、留寿都に入る。ここまで二時間位。



後ろが昭和新山



霧の地球岬 (室蘭)

留寿都から、真狩を抜けて、道の駅ニセコビュープラザに着く。ここで昼食と思ったが、野菜などの物産販売はあるものの、気に入った食べ物がなかったので、次をめざす。

ここから羊蹄山（蝦夷富士）がよく見えるそうだが、あいにくの雨で見えない。今回、蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山の周りをぐるっとまわったが、全く見えなかった。

ここから13分位ところの昆布駅をめざす。そこに昆布温泉がある。施設は、蘭越町交流促進センター 幽泉閣となっている。地元の人が利用する温泉施設のようだ。ところが、行って見て、今日は、17時から開館とのこと。仕方がないので、ニセコ駅前の温泉施設に入る。客はいっぱいいた。

ニセコ駅から倶知安までは車で約30分の距離だ。

15時30分に倶知安駅前にある、ホテルスリーエムに着く。部屋は、アパホテルと違い広い。ツインで食事なし一人7500円位。

ホテルで落ち着いてから、倶知安を車で移動。夕食の店を探す。最初に入った店は、ピザ屋。ピザだけのメニューを妻がきらい、出る。少し、南にいったところに、スーパーマックスバリューがある。その一角に、味の時計台という中華の店があったので、そこで札幌ラーメンと餃子を食べる。倶知安だったが、札幌ラーメンは、本格的でうまかった。

明日の朝食を駅前のコープさっぽろ倶知安店で買い、ホテルへ戻る。

5日目 30日（火）

今日から晴れ

7時30分に部屋で朝食。今日は晴れた。遠くの山々が見える。しかし、羊蹄山の方向にはまだ、雲がある。

9時にホテルを出発。暑くなりそうだ。最初は、日本海に面した岩内に行く。そこの道の駅いわないに寄るが小さくて、昼食などは売っていない。早々にそこを去り、岩内にあるセイコーマートで昼食を買う。コンビニながら、そこで調理した弁当が売っている。

「セイコーマートは、札幌市に本社を置くコンビニエンスストアチェーン。大手が撤退した地域にも出店。北海道の人口減を逆手に取り、『地域おこし』を『地域のこし』と言い換えて地域との共生を模索している。災害時のインフラとしての機能や、限界集落に近い地域ではバス待合所の役割を担うなど、独自の取り組みを行う。

バイオマス素材の配合率を30%にすることでレジ袋の無



神威岬から南の海岸線を望む



神威岬 後ろに見える尾根を歩いてきた

料配布を継続したり、地域特産の食材の発掘やアイスクリームなどのプライベートブランド商品の充実をはじめ、自社農場や加工工場を持ち、生乳を生産するメーカーの側面も持つなどユニークな経営で知られる。北海道内に約1100店舗で大手を抑えて1位の店舗を持つ」とのことである。

岩内から北上して、原発のある泊村を通って、神威岬に向かう。神威岬の入り口ゲートは、朝8時に開く。以前に来たときは、早朝でそのことを知らずに入れなかった。その代わりに、入り口近くでキタキツネが1匹こちらを向いていた。餌でも

欲しかったのかな。

神威（カムイ）は神を表すアイヌ語

入り口を入り、登っていくと駐車場がある。そこから神威岬、岬の先端まで徒歩で行く。片道 20 分。アップダウンの狭い道である。晴れたせいか、観光客は、外人もいれば道内の人もいる。遠くから岬の先端を見ると万里の長城風にも見える。ここは、昔は、女人禁制だった。その名残で女人禁制の門がある。それだけ、神聖な場所だったのである。神威とは、神、精霊といった高位の霊的存在を意味するアイヌ語である。

岬の先端の先には、大きな神威岩がそびえている。そして、その先は、日本海の雄大な眺めである。久々に長く歩いたようだ。

駐車場に戻って、買って来た弁当で昼食にする。涼しい風も吹いている。

神威岬をあとにして、積丹半島を横切り、余市町に向かう。あのウイスキーの余市である。

水族館も旅の目当て

余市町を過ぎ、小樽に向かう。余市からは車で 35 分位。小樽に入る前におたる水族館に寄る。旅では、水族館も温泉とともによく行く。一人 1800 円。曇りで海のそばで涼しくらいだ。



迫力のあるトドの餌やり

めずらしいのはトドの餌やり。トド自体が大きいので迫力がある。他に、セイウチ、イルカのショーなどがある。ここでは、海を仕切っただけのプールでセイウチなどが暮らしているとのこと。あとは、北海道の幻の魚・イトウがいる。2メートル位まで成長するという。その他、特大のホッケ、カレイのでかいやつ・オヒョウもいる。

おたる水族館から小樽はすぐである。

小樽市内に入る前にやはり、一日一回は温泉へ。小樽天然温泉湯の花手宮殿に行く。

そのあとは、小樽で夕食、回転寿司魚一心へ。さすが、小樽で、ネタもよかった。小樽は、海鮮の店、寿司屋は多

い。くら寿司とは比べものにならない。職人が握ってくれるのだ。回転寿司でも職人が握る店でないとだめですね。

イオンで朝食を買って、ホテルに向かう。もう暗くなっている。

午後 8 時、CozyInn OTARU に着く。玄関の目の前に車を停める。2 階建てで新しいようだ。部屋は広々とした 27.8 平米。食事なしで二人で 11140 円。

ゆっくりと眠りに着く。

6 日目 31 日 (水)

7 時 30 分を買ってきたものでゆったりと朝食。

9 時にホテルを出発。小樽市観光駐車場に車を停めて、小樽を散策。小樽運河を歩き、小樽の街をめぐる。小樽は、海から駅に向かって坂になっている。小樽は、繁栄していた時の建物などが今も残っていて、風情を醸し出している。小樽中央市場は、古くて店が少なくなっている。そこで揚げたての薩摩揚げを買う。1 時間ほど散策をして札幌に向かう。



人力車が走る小樽

11時15分に札幌に入る。昼食に札幌ラーメンを予定していたが、既に倶知安で食べたので、他のものにする。大通り公園の駐車場に停めて歩く。天気は晴れ。暑い。風が少しある。

時計台は、周りの景色に埋もれてきた

大通り公園から時計台、赤レンガ庁舎（工事中）を経て、北海道大学へ。構内を見学する。かなり広いようだ。ポプラ並木は一応見しておく。ポプラの樹は背が高い。20メートル以上あるだろうか。高いのは、30メートル以上もあるという。

かなり歩いた。札幌駅から地下に入り、大通り公園駐車場へ。そしてホテルへ向かう。

今日の宿は、スワンキーホテル・オートモという。セミダブルだが、アパよりは少し広いようだ。寝心地がよいとされる「トゥルースリーパー」が敷いてあるようだが、よくわからなかった。朝食付、二人で8120円と安い。ところが、駐車場1400円取られる。やはり札幌という街のせいか。朝食付きというが、パン一つに飲み物だけだった。これは、反対にアパが断然良い。

一服したところで、ホテルを出て、ジンギスカンだるま 5.5号店に入る。やはり、混んでいる。しかし、回転が早いようなので待つ。メニューがジンギスカン肉（1人前1280円）、上肉（1人前1680円）、ひれ肉（1人前1680円）しかない。あとは、キムチとごはんとビールを頼む。結構いい値段だが、食べてみると肉が良いようだ。特にジンギスカン（羊）肉がうまい。ひれ肉よりもうまいのはいか。妻もうまいという。



北海道大学ポプラ並木
台風で倒木しだいぶ復活

ジンギスカンだるまは、昭和29年創業。本店も含めて、すすきの周辺に5店舗ある。近年は、東京にも進出しているという、ジンギスカンの人気店だ。

夕食後、ホテルへ。明日は、最後の北海道での旅の日だ。

7日目 8月1日（木）

7時にホテルで朝食。パンと飲み物だけ。部屋に持って帰り、食べる。

9時にホテルを出発。札幌から支笏湖に出て、苫小牧に向かう。途中は、山の中だ。

11時30分に苫小牧のイオンモールに着く。ここで、フェリーで食べる朝食、飲み物、氷、釣り場で食べる夕食等を買う。

「海の駅ぷらっと」で海産物の買い物と食事

昼食は、「海の駅ぷらっと」で、また海鮮土産などを買い物する。ここは、海鮮丼などもいいが、私は、北寄貝カレーを注文、真黒色だ。北寄貝は、さすがにうまい。妻は、魚定食。

まずは、妻をイオンモールそばの温泉へ案内。そのあと、私は、釣具屋に寄って、釣り餌を購入。その足で苫小牧港に入り釣りをする。以前に来たときは、先の堤防まで入れたが、途中までしか入れないようになっていた。全国的に、港の堤防では、米国同時多発テロ以降、港湾の保安対策強化、また、事故が多いので立ち入り禁止になっている。残念だ。一方で、安全対策をして開放する港も最近では出てきている。

釣りの途中、雨がパラパラときたが、すぐにやんだ。暗くなってから30cm前後のカレイが釣れる。4匹。ア



苫小牧港での釣り 突堤の先がフェリー航路

ナゴも1匹きた。カレイは、春先には、60cm以上の大きいのも釣れるとのこと。今は、次期が外れている。

21時に納竿。港を出て妻を迎えに温泉施設へ。22時前には、苫小牧港フェリー乗り場へ着く。

チェックインし、22時半頃には乗船。部屋は、4人部屋でベットが四つ。それぞれカーテンで仕切られている。他の二つは、今日は入ってこなかった。私たちの専用の部屋となった。行きの船にはテレビがあったのに、この船にはないと妻はがっかりしていた。部屋で一服して、まずは、風呂へ直行。

8日目 2日(金)

1時30分に苫小牧港を出発。フェリー・サンフラワーしれとこ号。客室はカジュアルルームである。航行予定時間は、18時間。運賃は、行きと同じ値段である。

ゆっくりと寝る。

7時半頃、朝食にする。この船にレストランはない。自販機コーナーにテーブルと椅子があるので、そこで買い込んだもので、食べる。

昼食は抜いて16時ごろに夕食を食べる。

19時30分に大洗港に予定通りに着く。

下船して、まっすぐ、南大沢の自宅に向かう。着いたのは、22時ごろか。